



女性で年齢階級別に献血継続率を算出すると、献血者全体では50歳代・40歳代の中高齢層の維持率が高かったが、初回献血者に限定すると年齢階級による差はあまりみられなかった。

平成23年度 「献血データの解析2011」 まとめ  
5年間の資料を基にH18年度（2006年度）献血者からみた献血継続率

平成18年度の献血者について：5年献血継続率を検討した。

- 「年に2回以上」献血をした場合、5年献血継続率は40%に対し、「年に1回」献血をしていた場合、10%。
- 初回献血者では、「年に2回以上」の場合の5年献血継続率は15%、「年に1回」の場合、4%と低くなる。
- 「男性」の5年献血継続率は20%、「女性」では10%。
- 初回献血者では、性別、年齢別に見た場合、5年献血継続率に大きな差は認められない。
- 「中高年齢層（特に40歳代・50歳代）」の献血者は、「若年層」の献血者と比較して、5年献血継続率がやや高かった。

初回献血者に2回以上献血することを推進

5年間を対象とした解析の結果、「中高年齢層」の方が「若年層」よりも、「年に2回以上」献血をした場合の方が「年に1回」献血をした場合よりも、「男性」の方が「女性」よりも献血継続率が高いことが明らかになった。しかしながら、初回献血者に限定すると性差や年齢階級による差はあまりみられず、初年度の献血回数だけで差がみられた。以上のことから、初回献血者の2回以上献血を推進することが献血継続の観点から望ましいと考えられた。

献血推進に向けた効果的広報の評価  
● 献血データの解析からみた3年間の【まとめ】

1. 未献血者は、献血に関する知識、イメージが不足
2. 初めて献血の理由は、「友愛・奉仕の精神」と「きっかけ」
3. 献血を継続する理由は、「友愛・奉仕の精神」と「メリット」
4. 献血推進のための広報戦略は、幅広い世代にアピールする力が強い方法（テレビやラジオ、街頭での呼びかけ、ポスター）が効果的
5. H21年度に20歳代の献血本数が減少したが、人口あたりの献血本数は減少していない。
6. 20歳代の献血本数が全体の献血本数の増加に寄与する。20歳代への献血の働きかけが重要であることを示唆している。
7. 10歳代の人口あたりの献血本数には月別変動があり、学校・大学行事と関連している。学校・大学との連携が必要
8. 献血継続率が高い：「献血年2回以上、男性、再来、40-50代」
9. 献血継続率が低い：「献血年1回、女性、初回、10-20代」

若年層の初回献血者に、初年度2回以上献血することを強く推進  
【持続的な献血、将来の献血本数確保】

以上3年間の解析から、若年層の初回献血者に、初年度に2回以上献血することを強く推進することが持続的な献血、また将来の献血本数確保のために有効であると考えられた。そのためにはテレビやラジオなどの広告媒体や学校との連携を通じて、献血に関する正しい知識や情報提供をする必要があると考えられた。

以上は、平成24年2月10日に開催された、第87回市町村職員を対象とするセミナー「血液事業において市町村に期待すること」【基調講演】「献血推進に関する効果的な広報戦略等の開発に関する研究報告」において、研究分担者田中が発表したものである。

これを3年間の研究成果として報告する。

健康危険情報

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし

研究発表

該当なし

---

---

厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業  
献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究  
**総合研究報告書**

発行：平成 24 年 3 月

発行者：献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究班

研究代表者 白阪 琢磨

〒540-0006 大阪府中央区法円坂 2-1-14

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

HIV/AIDS 先端医療開発センター

TEL 06-6942-1331

---

---

